

贅

力

能村 研三

記念号十六冊

花過ぎて仁王の贅力あらはなり

一弁を欠きし牡丹の紅褪せず

倍々に塩着し地藏花は葉に

現実と理想のあはひ海市立つ

郁子蔓の有無を言はさぬ伸びやうぞ

花の塵癖したたかな庭箒

仮名好きの紙魚が棲みたる一書かな

小満の檜は樹液を醸しゐる

暮初めて古書肆の匂ひ夏兆す

多機能の使はぬ機能夏に入る

能村 研三

「沖」創刊五十周年の祝賀会は、三度目の正直（実際は六度目）を信じて規模を縮小しながらも無事開催することができた。当初の予定から実に二十か月の延期であったので、実施できたことは喜びも一人であった。祝賀会会場の壁面に添って、「沖」の創刊号から五十周年記念号までの記念号十六冊の表紙絵を大きなパネルにして飾った。

記念号の表紙にそれぞれの解説をつけ、「沖」表紙絵でつづる50周年のあゆみ」というリーフレットを作った。

五十年の中の記念号、十六冊を手元に置いてそれぞれ眺めてみると、改めて「沖」五十年に関わって下さった多くの先輩諸氏の「沖」への熱い思いとお力を感した。

編集長は林翔先生が創刊号から通巻百五十号まで十三年、表紙絵は創刊号加藤利以地氏のペン画で飾り、上谷昌憲、野村東央留各氏が担当した。二代目編集長は渡辺昭同人が担当創刊十五周年から二十周年まで、

表紙絵は植木力氏、中原道夫氏等が担当。三代目編集長は私が担当、中原道夫氏が表紙を飾った。四代目編集長は北川英子氏が担当、能村登四郎から研三への主宰移行期の編集に携わっていただいた。この時期は熊谷博人氏が表紙を担当した。創刊三十五年、四十年記念号は千田百里氏が担当、編集長退任後は五十周年まで同人会長をお務めいただいた。

現編集長辻美奈子氏は通巻五百号、四十五周年、そして五十周年を担当、五十周年以降は編集長に加えて同人会長にも就任していただいた。現在の表紙絵は池田蘭径氏の作品によるもので、氏は今回の祝賀会にもお越し下さり、お目にかかることができた。

記念号十六冊から五十年の歩みを俯瞰してみたが、本号まで創刊から通巻622号には大勢の方々が様々なカタチで「沖」一誌に関わって下さっていることを思うと謝恩の気持ちで一杯である。